



元気っ子

No.253 ながさわ保育園

平成 30 年 9 月号

園 長 市 川 温 予

今夏は異常気象で高温注意情報や命にかかわるレベルの熱中症も多く、子ども達の健康状態を心配しましたが、プールの入水時間や室内遊びと先生達も神経をフルに使ってうまく保育を進めてくれました。子ども達の活動の幅も狭くなりましたが、その中でも夏空の下でプールに入る子ども達の姿は最高でどの子も目をきらきらと輝かせてその子なりの楽しみ方で満面笑顔でした。歓声をあげて友だちと一緒に大はしゃぎし、水に触れる気持ちよさを十分に感じているようでした。まさに子どもらしい姿で自然な姿です。



また夏といえば、セミやカブト虫。少し涼しい日には園庭でセミやカブト捕りに夢中になっていました。木にとまっているセミをずっと見上げているSくん。背伸びをして手を伸ばし、そーっと。そして木をクルクル回り、捕まえるタイミングを見ているようでした。この時のSくんはきっといろんなことを考えていたと思います。最終的にはセミは飛んでいったのですが、この体験が大事だと私はいつも思います。「どうやったら捕まえられるだろう?」「たもが必要。」などいろいろ考えることが大切です。私達大人は知識を細分化し、その関係の中で物事を考える方法を学んできています。知っていることを積み上げていくという力ではなく、今子ども達は体験を通して学ぶ時期なのです。子どもの体験的な学びが生まれる。そこで大人が答えを出してしまったら子どもの学びは生まれません。私達大人が邪魔をしないように子ども自らの体験的な学びが生まれるように子どもの持つ力を信じていくことが大事だと目の前の子ども達を見ていて思うことがよくあります。

学童のお兄ちゃんお姉ちゃんとの関わりがいっぱいありました。

今年の夏は学童のお兄ちゃんお姉ちゃんとの関わりが多く、保育園の子ども達にとっても学童の子にとっても刺激になり、良かったと思います。とくにお姉ちゃん達は、小さい子がプールに入るときの着脱を手伝ってくれたり、給食の時の援助、散歩に一緒に行ったりと優しく、そして言葉かけがとても丁寧で感心してしまいました。小さい子も普段は自分でできていてもお姉ちゃんに甘えて服を着せてもらったり、ごはんを食べさせてもらったりと健康的な依存をしていました。とても良いことだと思いました。大人も子どももいろんな年齢の人がいていろんな声が飛び交っている生活環境の中でいろんな刺激を受けながら育つことは良いことだだと思います。これからもいろんな年齢の人と関わる機会があればいいなと思います。



これから秋に向かい、過ごしやすくなります。戸外で思いっきり身体を動かし、夏に得た力を元にいろんなことに挑戦できる環境をつくっていきたいと思います。